

学まちコラボ

京都市・大学コンソーシアム京都では、「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」に基づき、大学と地域との連携による取組に対して助成金を交付する「学まちコラボ事業（大学地域連携モデル創造支援事業）」を実施しています。

この事業は、大学にとっては実践的な教育・研究機会の確保による人材育成などを、地域にとっては大学の知や学生の活力による地域の課題解決や活性化を図ることを目的としています。

また、この取組を各区基本計画にある個性を生かした魅力ある地域づくり事業と関連づけることで、各区基本計画の振興に役立てるとともに、取組成果等を広く市民に周知したり、地域との取組を行う他の団体等とのネットワークづくりなどを支援することにより、大学と地域との連携をより一層促進することを目指します。

平成21年4月24日～6月3日にかけて、下記のいずれかに該当するグループ等を対象に、本事業の支援対象となる取組を募集しました。

- 大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学の団体・グループ（大学部署、研究室、ゼミ、クラブ、学生サークル等）
- 地域住民で構成される団体・グループ

平成21年度は、23事業（スタンダード部門21件・チャレンジ部門2件）の申請があり、下表の10件（スタンダード部門9件・チャレンジ部門1件）を助成対象として採択しました。

平成21年度
事業結果

申請概要

協力団体等

スタンダード部門

1 LET'S小野GO（小野郷へ行こう！） 小野郷プロジェクト（佛光大学）／北区

急速な過疎化に伴い、少子高齢化が進む北区小野郷地域において、他出家族員調査による地域活性化の要素抽出作業を行うとともに、住民により作成された小野郷マップを活用した他地域への情報発信や、小野郷地域まちづくり推進委員会の機能化を目標としたワークショップ、先進地視察による学習及び意識醸成などを行い住民自治の推進及び基盤形成を図る。

小野郷地域まちづくり推進委員会
小野郷自治会
小野郷民生児童委員協議会
京都市北区社会福祉協議会
小野郷学区社会福祉協議会

2 地域自慢冊子 「（仮称）出町を楽しむ本」 でまち倶楽部（同志社大学大学院）／上京区

地域との接点を持ちにくく、地域とトラブルを抱えがちになる学生に地域への関心を持ってもらうため、今までの活動で発掘した地域の魅力を整理するとともに、地域内外の関係団体と学生が連携して新たな地域の魅力を取材・調査する。それらを整理した「若者と地域をつなげる地域本」をコンセプトとした、学生の視点で捉えた地域の魅力、地域活動などの情報をまとめた冊子に地域に住む若者に発信し、地域の魅力を伝えるとともに、若者の地域参加へつなげる。

出町商店街振興組合
京極住民福祉連合会
上京少年補導委員会京極支部
でまちなじむ実行委員会

3 中京「おばけ」伝承調査と再創造プロジェクト 精華おばけプロジェクト （京都精華大学）／中京区

高度経済成長期以前まで、一般家庭の節分行事のひとつとして市民に楽しまれてきた、男女や年齢の枠を超えた扮装をすることにより除災招福を願う「おばけ」文化の実態を、町衆文化が色濃く残り、かつ「おばけ」にまつわる体験を持つ人々が多い中京において調査し、再創造（復活）させる。

第一朱雀クラブ（朱一老人会）
朱一地域女性会
美寿々会（教養老人会）
教養地域女性会
乾寿クラブ連合会（乾老人会）
乾地域女性会
京都三条会商店街振興組合

4 空き家全体をまちの風情にするアートプロジェクト 空き家全体をまちの風情にするアートプロジェクト （京都造形芸術大学）／東山区

空家の増加による地域コミュニティの崩壊など地域の不安や危険要因を除外するため、発想（アート）や住民の力で解決する可能性を探る。空き家全体をまちの風情にする全体ランドデザインを構築し、地域の安全、交流、教育などの場となるように、フィールドワーク、ワークショップ等により、空家展開案を提案し、地域住民と考える。調査結果、提案などは、成果物としてまとめるとともに、模型を制作し、東山区役所に展示するなど広く公開する。

六原学区自治連合会
六原地域女性会
六原消防分団
大統院・西福寺

5 思い出作り140年プラス計画 龍谷大学門前町総合調査チーム／下京区

西本願寺門前町にある今年度閉校となる植柳小学校とその学区における140年の歴史を、地域住民等から提供のあった古写真や子供たちが自ら制作した西洞院和紙に描いた絵画や団扇による展覧会などを開催し、目に見える形にまとめる。また、写真や絵画などは、閉校後も将来にわたって「心の拠り所」となるよう、地元住民と検討のうえ、植柳学区に建設予定の博物館「龍谷ミュージアム」内に展示する。

植柳まちづくりプロジェクト
京都市立植柳小学校

6 愛宕古道街道灯し 京都嵯峨芸術大学竹造サークル／右京区

嵯峨野保勝会と京都嵯峨芸術大学がつくりあげてきた祭である「愛宕古道街道灯し」に使用する、1,000基行灯の一部を、学生、地域住民や地域の団体等がワークショップ形式で制作し、ものづくりを通じた人とのつながりを生み出す。また、広報活動の一環として、学生がデザインしたTシャツを祭り当日や行灯制作時に着用し、祭の盛り上がり貢献する。

嵯峨野保勝会・京都市立嵐山小学校
京都市立嵯峨小学校・京都市立広沢小学校
京都市立嵯峨中学校・京都府立北嵯峨高校
京都市桂川特別養護老人ホーム
社会福祉法人京都ライトハウス

7 京北子どもプロジェクト 立命館大学産業社会学部 「京北プロジェクト」／右京区

地産地消に基づいた食育の授業を通して、食の安全や伝統的な食文化の大切さを子どもたちに伝え、地域の自然及び文化資源を教材とするESD（持続可能な社会のための教育）の新たなあり方を追求することを目的として、納豆発祥の地という京北地区において、納豆作り、納豆授業、ワークショップなどを実施し、地域の伝統的な食文化の継承・発展などを旨とする。

特定非営利活動法人
フロンティア協会

8 大枝05～ニシヤマアートブックプロジェクト～ 大枝アートプロジェクト実行委員会 （京都市立芸術大学）／西京区

京都第2外環状道路の建設により、風景や地域コミュニティが大きく変化している大枝・大原野の西山地域における地域の魅力を再発見するため、「みどりの停留所」をキーワードとする今までの活動を踏まえ、地域の魅力を再発見し、内外に伝えるガイドブック「ニシヤマアートブック」を作る。その制作過程も地域内外の新しい関係性を築く活動として位置づけるとともに、完成したガイドブックについては、地域の観光価値を高めるだけでなく、地域内外への新たなコミュニケーションツールとして機能させる。

京都Neo西山文化プロジェクト
西京まち・ひと・情報データバンク
（通称：にしきょう・ねっと）

9 伏見砂川・公園を中心とした地域との交流事業 龍谷大学・伏見砂川・公園探検チーム／伏見区

公園の安全情報を記した地図の改定版を作成するとともに、公園で毎年行われているものの、形骸化している夏祭や地蔵盆に、学生が企画・運営側として参加し、学生と地域住民との交流を図り、公園で開催される地域行事の活性化を図る。

砂川地域安心安全ネットワーク

チャレンジ部門

10 地域・消防・大学三位一体を目指して 京都橋大学 救急救命研究会 -TURF- / 山科区

安心安全な地域をつくることを目的として、京都の学生による地域住民を対象とした救急指導を実施する。地域に入るにあたっては、消防の力を借りることにより、地域だけでなく消防との連携も図る。また、心肺蘇生等の講習を短時間で行うなど、受講者のニーズに合わせた講習を行い、学生が大学で習得した知識・技術を効果的に地域へフィードバックする。

大宅学区自主防災会
小野学区自主防災会
京都市消防局山科消防署
山科消防団・山科三条商店会
セントジョンアンビュランス
ジャパン協会関西本部
Heart Saver Japan

プロジェクト紹介

取組内容 と成果

スタンダード部門

1 LET'S小野GO (小野郷へ行こう!)

小野郷プロジェクト (佛教大学) / 北区



成果

過疎化や少子高齢化が急速に進む小野郷地域の活性化を図るため、他地域で生活する小野郷出身者を対象とした調査ヒアリング(他出家族員調査)を行うとともに、小野郷マップの活用による他地域への情報発信を行い、住民が主体となった自治形成を目指して、ワークショップ、先進地視察などを実施した。

- 他出家族員調査を通じ、調査対象者から様々な地域活性化のアイデアや、労力の提供申出があるなど、新たな地域活性化の担い手の開拓を図ることができた。
- 大学や学生など地域外の者が関わることで、住民が地域の魅力を再発見することができた。
- 学生が内外に地域の良さをPRすることの重要性を感じ、主体的に小野郷Tシャツや手ぬぐい等のグッズ開発を行うことができた。
- ワークショップの積み重ねにより、来年度も農作物を加工した商品開発や高齢者の生活実態調査等を行うことになり、継続して活動が行うことができるようになった。



地域自慢冊子

2 「(仮称)出町を楽しむ本」

でまち倶楽部 (同志社大学大学院) / 上京区



ワンルームマンションに住む多くの学生は、地域との関わりが少なく、ゴミ出しや騒音など生活面でトラブルを起こしやすい。そこで、「学生と地域をつなげるフリーペーパー」を作成し、学生の視点による地域の魅力や地域活動の情報を地域に住む学生に発信し、地域へ関心を持ってもらうとともに、関心のある学生にはフリーペーパーの作成に携わってもらい、継続的に地域と関わる機会を提供し、学生と地域の交流・連携の仕組みづくりを図る。



成果

- フリーペーパーの企画から発行、配布までの過程を通じ、学生に地域の取組や地域住民の考えに触れる機会を提供できた。また、地域の各種団体との交流を通じて学生のコミュニケーション能力の向上といった学生の成長にもつながった。
- 新しく活動に加わった学生が、その後も地域活動に参加するなど継続的に地域と関わりを持つようになった。
- フリーペーパーに掲載された企画に対する読者からの取材等が多くあったことから、住民にとっても改めて地域資源を認識する機会となった。

3 中京「おばけ」伝承調査と再創造プロジェクト

精華おばけプロジェクト (京都精華大学) / 中京区



一般家庭の節分行事として市民に楽しまれてきた、男女や年齢の枠を超えた扮装をすることで除災招福を願う「節分おばけ」を再創造するため、京都庶民の伝統的な生活文化を色濃く伝える地である朱一学区の老人会等の協力のもと、「おばけ」に関する伝承

成果

- 調査を行うとともに、「おばけパレード」などのイベントを実施した。
- おばけ伝承調査によって、老人会や女性会を支える70歳前後の方の中京に生まれ育った貴重なライフストーリーや豊かな民俗伝承を聴取できた。
- 花街と民間の「おばけ」の体験談や「変身」に関する精神面からのアプローチについての講演から、節分おばけの意義を確認することができた。
- 商店街・各学区老人会・女性会の厚いサポートを受けて実施したおばけパレードでは、多数の見物者があり、商店街を活気づけることができた。



4 空き家全体をまちの風情にするアートプロジェクト

空き家全体をまちの風情にするアートプロジェクト (京都造形芸術大学) / 東山区



成果

- 空き家の現況確認と住民への聞き取り調査から、空き家をまちの風情にする活用方法のプランを検討し、その結果を冊子にまとめた。また、地域住民との意見交換イベントを行い、空き家だけでなく発掘した地域資源の活用方法について検討するなど、持続可能な地域コミュニティづくりの方向性を探った。
- 空き家による地域への弊害等や地形による文化や産業、コミュニティの成立過程などを住民たちと再確認することができたとともに、住民が、地区の地形(断層の影響による高低差が原因で住宅が密集化、狭小化している)への関心や防災意識を持っていることを、イベントを通じて確認することができた。
- まちの死角とならないよう常に誰かが住んでいるようだという雰囲気を作り上げる創意工夫が空き家全体をまちの風情にする方法となること、また、それには、所有者の理解と了承が必要であり、住民の空き家に対する新たな捉え方(まちの風情)を再確認する必要があることがわかった。



5 思い出作り140年プラス計画

龍谷大学門前町総合調査チーム / 下京区

植柳小学校の閉校後も地域の拠点確保と西本願寺門前町に「にぎわい」を取り戻すことを目的とし、名古屋と金沢で開催された本願寺展への来場者へのアンケート調査を実施し、西本願寺を広くアピールする基礎資料を作成するとともに、地域住民に西本願寺門前町のまちづくりと京都の伝統産業に関心をもってもらうために、植柳小学校と連携して町の散策、うちわ制作や和紙による卒業証書の作成などを実施した。



成果

- 植柳小学校の児童・保護者・教職員・地元住民と門前町を散策することで、門前町をより身近に感じてもらう機会となるとともに、その際に撮影した写真を基に作成した絵画を利用した京うちわを作成することで、京都の伝統産業への関心を高めることができた。
- 植柳小学校の全校児童が閉校となる校舎を描くことにより、思い出作りになるとともに、その絵画写真展を、植柳小学校閉校記念事業として門前町納涼フェスタ時に合わせて実施することによって3,000人程度の来場者に植柳小学校と門前町へ関心を持ってもらうことができた。



6 愛宕古道街道灯し

京都嵯峨芸術大学竹造サークル／右京区



嵯峨野の古い町並みが残る街道を、竹と和紙で作る大小様々な行灯で照らす祭りである「愛宕古道街道灯し」を運営するとともに、使用する行灯を約 700 基制作した。また、地域との交流を図るため、地域住民や福祉施設・地域の小中高校等への行灯制作ワークショップを実施した。

成果

- 行灯制作では竹と和紙という素朴な素材を使うことで、世代を問わず制作に関わることができ、年配者と子どもの交流が行われた。
- 化野念仏寺千灯供養の参拝者は減少傾向にある一方、祭りへの来訪者は年々増加しており、地域の活性化に寄与している。
- 祭りを継続して行ってきたことで、地域との信頼関係が生まれ、祭りだけでなく地域の課題解決（日常の観光客増加）に向けて地域と大学が協力して取組む機会が生まれた。
- 祭りに関わった団体間でのコミュニティが生まれるとともに、学生が地域住民へのあいさつを積極的に行ったことで、行灯設置や点灯作業など祭りに協力する住民が多く見られた。



7 京北子どもプロジェクト

立命館大学産業社会学部
「京北プロジェクト」／右京区

食の安全や伝統的な食文化の大切さを地域の子どもたちに伝えるとともに、地域の自然及び文化資源を教材とする ESD（持続可能な社会のための教育）



成果

- 子ども達に食材を手作りすることの楽しさや市販の納豆と伝統食である「藁つと納豆」との味・匂い・食感の違いを実感してもらうことができ、伝統食の見直しにつながった。
- 学生が「納豆授業・納豆博士になろう」の企画・運営をすることで、地産地消の大切さや、伝統食の価値を再発見する良い機会になるとともに、企画に参加した子どもたちも楽しみながら納豆に関する知識を深めてもらうことができた。



8 大枝 05 ～ニシヤマアートブックプロジェクト～

大枝アートプロジェクト実行委員会
京都市立芸術大学／西京区

風景や地域コミュニティが大きく変化している西山地域で「みどりの停留所」をはじめとするこれまでの活動で培ってきた「ひと・こと・もの」の関わりを踏まえ、地域の魅力を再発見し、地域内外に新たなコミュニケーションの発生を促すツールとなるガイドブックを作成した。



- 地域住民と連携するなかで、新たなコミュニケーションが生まれるとともに、地域住民が地域を改めて意識することができるようになった。
- 今まで交流のなかった様々な世代層との対話が生まれ、学内だけでは得られない幅広い学びの場が広がった。
- これまでは一時的な制作や交流、企画のみであったが、本の制作を行うことで、地域の魅力や自分たちの視点の在り方を改めて考えることができ、活動と地域との関係を改めて見直す良い機会となった。



9 伏見砂川・公園を中心とした地域との交流事業

龍谷大学・伏見砂川・
公園探検チーム
／伏見区

砂川地区における乳幼児、高齢者や障がい者など、様々な人が安心して快適に生活するため



に提供される公共空間である「公園」をより充実した活動拠点となるよう、公園の特徴や周辺の福祉関係施設を掲載した地図を作成するとともに、公園を中心に開催される地域活動である夏祭りや地藏盆の手伝いや、学生による出前講演を実施し、地域活動の活性化に寄与した。



成果

- 地図を配布することで、公園や子育て支援施設、福祉関連施設への関心を喚起させ、施設の利用を促すことができた。

- 学生が地域行事に参加することで、行事が活性化するとともに、学生自身が地域行事への関心を持つことができ行事を楽しむだけの受動的な立場から人を楽しませるといった能動的・意欲的な立場に立つことができるようになった。
- 学生が子どもの前で出前講演をすることで、人前に立つ際の態度や心構え、保育技術の獲得・向上に役立った。
- 公園探索の過程において、乳幼児、障がい者、高齢者といった様々な視点に立って物事を考える機会を持つことができ、社会福祉の視野の拡大・向上につながった。

チャレンジ部門

10 地域・消防・大学三位一体を目指して

京都橘大学 救急救命研究会
—TURF—／山科区

大学で学んだ救命に関する知識・技術を、消防機関との連携のもと、地域住民へフィードバックすること



ことで、「救命の連鎖」や「救命のリレー」が行われ、安心安全に暮らせる地域作りを目指した。具体的には、地域の防災訓練や祭りなどでの心肺蘇生法や応急手当法の指導や、地域の災害対応力を高めるために市民の自主防災組織や市民が意見交換などを行うやましな市民防災会議での活動報告等を行った。

成果

- 地域での防災訓練やお祭りで心肺蘇生法などを指導することで、受講者の方に知識を習得してもらうことができた。
- やましな市民防災会議での活動報告や心肺蘇生法の講習会を実施することで、地域住民の方々へ心肺蘇生法の重要性や短時間での講習が可能であることをアピールすることができ、安心安全の地域づくりに寄与することができた。



募集について

平成 22 年度事業の募集を下記のとおり行います。詳細については募集要項を参照のうえ、ご応募ください。

対象事業

平成 22 年度中に京都市内で実施される、次の要件に該当する事業を対象とします（特に大学と地域との深い協働がなされ、地域活性化に貢献するものが望まれます）。ただし、政治活動・営利事業等を目的とするものは除きます。

- ✓ 大学又は地域団体等が実施する、大学と地域住民が連携・協働して取り組む事業で、各区基本計画にある個性を活かした魅力ある地域づくり事業と関連したもの
例：保健・福祉、社会教育、まちづくり、学術・文化・芸術又はスポーツの振興、環境保全、地域安全等の様々な分野における調査研究、市民講座、イベントなど
- ✓ 先進性を有し、他の地域のモデルとして応用、展開が期待されるもの
- ✓ 継続性及び発展性が期待できるもの

申請部門

● スタンダード部門

申請者（大学・地域団体等）に一定の活動実績があり、今後さらに発展的な取組を進めようとする事業を対象とします。助成金の上限は 30 万円です。採択件数は 7～10 件を予定しています。

● チャレンジ部門

学生・院生を中心に、これから新たに地域との連携を進めようとする事業を対象とします。助成金の上限は 10 万円です。採択件数は 3 件程度を予定しています。

申請方法

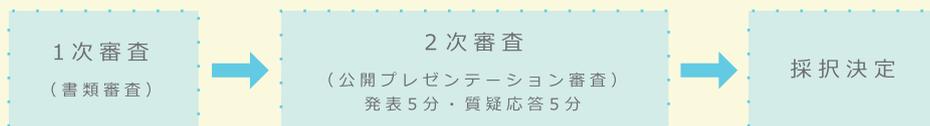
- ① 区役所・支所、キャンパスプラザ京都等で配布の募集要項・申請書を入手し、募集要件を確認してください。
※大学コンソーシアム京都のホームページからも入手できます。
- ② 申請する事業について、各区役所における「各区基本計画」の担当課を訪問し、担当者と意見交換を行ってください。
また、チャレンジ部門へ申請される場合は、地域連携団体との意見交換を必ず行ってください。（スタンダード部門は不要）
- ③ 申請書に必要事項を記入し、申請書類を【8 部】用意の上、大学コンソーシアム京都へ【郵送】にて提出してください。
（持参・メール等での提出は不可）
※複数の団体・グループが連携して助成対象事業に取組む場合は、いずれかの団体・グループが代表して応募してください。

受付期間

平成 22 年 4 月 16 日（金）～ 5 月 26 日（水）※ 必着

選考方法

選考委員会を設け、下記の要領で審査を行い、採択事業を決定します。
なお、採択された事業には京都市長名の認定書を交付します。



申込等一般のお問合せ先

財団法人 大学コンソーシアム京都
学まちコラボ 事業担当

〒600-8216
京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都（月曜休）
TEL：075-353-9163 FAX：075-353-9101
E-mail：gaku-machi@consortium.or.jp
URL：http://www.consortium.or.jp

本事業の企画等へのお問合せ先

京都市 総合企画局
市民協働政策推進室（大学政策担当）

TEL：075-222-3103
FAX：075-213-0443

 財団法人 大学コンソーシアム京都
法人 The Consortium of Universities in Kyoto

